

広報 ⊕  
No.745  
令和8年

# いいたて 3

[www.vill.iitate.fukushima.jp](http://www.vill.iitate.fukushima.jp)





地区の子ども達が熱演。「比曾の子ども三匹獅子」。



荒木真さん(大久保・外内)はバイオリンの演奏を披露。



「佐須虎捕太鼓」が迫力の太鼓演奏を披露。



山岸安博さん(白石)はギターの弾き語りで出演。



「いいたてフラクラブ」の華やかで優雅なステージ。



「D & I DANCE TEAM EVOLUBE」の息の合ったダンス。



保存会の皆さんが見事な「相馬流山踊り」を披露。



ゲストのストレート松浦さんによる鮮やかなジャグリング。



古典箏曲から現代箏曲まで、「琴の会」の見事な演奏。



会場を盛り上げる「めおと楽団ジキジキ」の音曲漫才。



上飯樋地区(13区)由来の「13区楽団」がバンド演奏。



会場を魅了した「いいたて太極拳サークル」の演舞。

# 令和7年度いいたて村芸能発表祭

2月に交流センター「ふれ愛館」で、『いいたて村芸能発表祭』を開催しました。2組のゲストを含む全出演者の発表の様子を紹介します！



冬から春にかけて赤・白・ピンクの花を咲かせるツバキ。常緑の葉と花色のコントラストが美しい。

## 目次 CONTENTS

- 02 話題「いいたて村芸能発表祭」
- 04 特集1「いいたてを耕す 担い手物語」
- 10 特集2「こども議会」
- 12 学びの広場「春雪祭」ほか
- 14 空から百景「2月の真野川」
- 16 ほけんとふくし「子育て全力応援！」
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からお知らせ「コンビニ交付」ほか
- 24 なりわいREPORT
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてPHOTOリレー ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS ほか

## 📷 今月の表紙



高木ミヨ子さんが制作した美しいつるし雛です。避難先で習得したつるし雛づくりを、帰村後も冬の手仕事で続けてきました。桃の節句に合わせて飾るのは昨年からで、今回が2度目だそうです。詳しくは裏表紙の記事をご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

また、2組のゲストも出演しました。花形演芸大賞・金賞を受賞したストレート松浦さんは、迫力あるジャグリングを披露。めおと楽団ジキジキは、音曲漫才で会場を大いに盛り上げました。次々に、個性豊かな演目が繰り広げられました。来場者は、多彩な発表に感動したり、大笑いをしたり。笑顔と歓声が、会場いっぱいにあふれていました。

発表の素晴らしさをもとより、芸能を楽しみ打ち込む姿に感動！

2月15日、「令和7年度いいたて村芸能発表祭」が、交流センター「ふれ愛館」で開催されました。

発表祭には、民俗芸能団体や文化サークル、個人やグループなど全10組が出演し、日頃の練習の成果を堂々と発表しました。

発表の素晴らしさをもとより、芸能を楽しみ打ち込む姿に感動！



いいたて愚真会の蕎麦の振舞いは大好評！



司会はラジオパーソナリティの和合敦子さん。



毎回多くの方が訪れます。「料理がおいしくて交流の場としてうれしいです。」



2種のおこわに漬物、汁物、副菜、デザートまで。心もほっと温まる一膳。



学生が4班に分かれ交代で運営に当たります。忙しい中も丁寧な心を込めて。



1月23日の回を担当した皆さん。左から3人目が大黒太郎先生。同4人目が漬物名人で先生の大切な相棒でもある高橋トク子さん(深谷)。

### 福島大学行政政策学類 大黒ゼミ

フィールドワークの実践を通して「持続可能な地域づくり」を学んでいます。令和7年度の村民食堂は、大黒先生も理事の1人になっているNPO法人まごころ運営協議会と協働し開催しました。また長泥地区で10月に「までい★長泥青空焼肉レストラン」を開催した他、広報いたて縮刷版をもとに村史『までいな村の自分史』作成にも取り組んでいます。

月に一度、いたて移住サポーター3などで開かれる村民食堂の運営に当たるのは福島大学・大黒ゼミの皆さん。学生と一緒に厨房に立つ大黒太郎先生も準備に余念がありません。大黒ゼミは震災後の飯館村をフィールドに村民に寄り添うさまざまな活動に取り組んできました。「復興の一助になりたい」と活動に加わる学生がいつしか直接の担い手に成長していく姿に、出身でなくとも思いが

あれば担い手になれるのだと実感します」と大黒先生。「この経験と学びが社会人となった時に本当に生きてくる。その種を仕込む活動でもあります」。1月の村民食堂にも多くの方が訪れ、懐かしい人との再会を喜ぶ声も聞こえていました。笑顔で配膳をしていた竹田和歩さんは卒業を控える4年生。「関わりが深まり会話が弾むと村の一員になれたようでうれしかった」と振り返りました。

### いたて村の村民食堂 福島大学大黒ゼミ



# いたてを耕す 担い手物語

村に暮らす人、仕事で通う人、移り住む人、時々訪ねて来る人、離れても思いを寄せる人：「ふるさとの担い手」と飯館村とのつながり方はさまざまですが、その一人ひとりの歩みが飯館村の「今」を形づくっています。

歩みを進める担い手に、隣りを歩む人が現れたり、背中にそっと手を添える人が現れたり、学びを得たいと若い世代が訪ねて来たり、出会いが重なり合う中で、いつしかたくさんのお話が生まれていました。

東日本大震災の発災から間もなく15年。およそ6年にも及んだ全村避難を越えて、一人ひとりの担い手がコツコツと耕し続けた村の景色は、こんなにも彩り豊かになりました。

令和8年の冬に出会った、担い手達の物語をお伝えします。皆さんの言葉から、取り組みの根底にある願いや、時間をかけて育んできたつながり、飯館村への思いが垣間見えます。

### ふくしま産業賞 学生部門・金賞を受賞!

大黒ゼミは、村民食堂の運営をはじめとする地域に根差した活動が高く評価され、福島民報社の「第11回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)」において学生部門の金賞を受賞しました。共催の県を代表してあいさつした内堀雅雄知事は「食文化の継承にも取り組みながら地域の人と信頼関係を築いて挑戦を続けている」と学生らに敬意を表し、高島英也選考委員長は「15年間のプロセスそのものが成果。村と同化し活動している。地域の未来はこういう所から生まれるのだろう」と評価しました。

宮川ゼミ長は「長く続いてきた活動でたまたま自分達の代が表彰の機会をいただきました。自分は1年生の時から活動に関わっていて、村の皆さんに顔を覚えてもらい親しくなれたことが一番心に残っています」と話していました。



2月6日に民報ビル(福島市)で行われた表彰式。ゼミ長の宮川蒼平さん(左)と出席したゼミ生の皆さん。





佐藤天斗さん(上飯樋)

北海道の大学を卒業し牧場勤務を経て、昨年3月に村へ戻りました。「もう一度べごやっちえんだ」と語っていた亡き祖父・細川義孝さんの思いを継ぎ、伯母の細川恵美さんが再建した牛舎を生かします。天斗さんは早速各地のせりに足を運んで素牛・経産牛(孕み牛※はらみうし)を導入し、育成と繁殖に取り組みました。「村の先輩方がいろいろ教えてください、祖父だったらどうしただろうと考えながら仕事をしています。まずは“1年1産”の継続を目指し、いずれ肥育にも挑戦したい。飯館牛のブランドを復活させ広めていけるよう、いい牛が作りたいです」。



小学3年生の時から県外に避難をしていた天斗さん。村に戻って旧飯樋小学校の友人と再会(左の写真)。フットサルチーム「I.B.C.」にも10数年ぶりに復帰しました。



小林司さん(飯樋町)

震災に伴い牛を連れて宮城蔵王へ避難した父の稔さんが、翌年から喜多方市で酒米の栽培に取り組むことになりました。その後避難指示が解除され、稔さんは両親を連れて帰村し、村で牛舎を再開。司さんが蔵王の牧場を維持し、連携して牛をつくる暮らしが続いてきました。昨年、生まれ育ったふるさとで子育てをしようと司さんも帰村。飯館村振興公社の空き牛舎を借り、ゆくゆくは蔵王の牛も村に集約する計画です。「父の世代が頑張ってきました。試行錯誤ですが着実に一步一步、手を抜かずいい牛をつくりたい。肥育の牛も増やしていきます」。



3兄妹の中でも長男の春翔君は牛や農業機械が大好きで率先して作業を手伝います。つなぎは祖父・稔さんからのプレゼント。



明治大学農学部 本所靖博ゼミ  
「つくる人と食べる人をどうつなぐか」をテーマに活動を展開している本所ゼミ。食品メーカーやレストランとのコラボ企画で、山田さんの牛肉の魅力首都圏の消費者に伝えています。「一生懸命で本気が伝わる」と山田さん。生産者と現場でつながることを大切にしている。他にも多くの生産者の元を訪れています。

ゆーとぴあ×たわわ

ふるさとを誇り、味わいを届けたい



少しずつ火を入れ旨みを閉じ込めたステーキ。高野靖夫さん・笑子さん(前田・八和木)のシイタケのマリネも添えて。

山田さんのドライエイジングビーフがステーキなどで味わえる福島市の「旬鮮香房たわわ」。店主の久保聡さんは飯館村の出身で、ふるさとの食材を多くメニューに取り入れています。「山田さんのお肉は香りが違う。赤身も柔らかく旨みが強い」と言います。「村で頑張っている皆さんと一緒に頑張りたいという思いが強くあります。野菜やエゴマなども含め村の食材をアピールしたい」。

旬鮮香房たわわ  
時 午後5時30分～11時  
休 日曜日・祝日  
※連休は日曜営業  
福島市置賜町8-14  
☎024-522-3831

飯館産の食材を味わうコースのリクエストにも対応しているそう。山田さんも「最後は調理にかかっています。おいしく焼いてもらえたい」と太鼓判です。



ゆーとぴあ×本所ゼミ

前列が豊さんとあゆみさん。後列は作業を手伝いに来ていた明治大学本所ゼミの皆さん。卒業を目前に控えた永田明衣さん(後列中央)は「就職前にもう一度会いたい」と山田家を訪れたそう。「1頭1頭の牛が大切に飼われていると感じてきました。そして6次化に楽しそうに取り組むあゆみさんはかっこいい」と笑顔を見せました。

肉のゆーとぴあ 山田豊さん・あゆみさん(関根・松塚)の挑戦とつながる担い手

「肉のゆーとぴあ」は牛農家でもある山田豊さん(関根・松塚)が営む精肉店。山田さんが手がけるドライエイジングビーフ(熟成肉)はプロの料理人からも高い評価を得ています。「熟成に合う肉の選び方が重要で、自分の牛と佐藤豊洋さん(飯樋町)の牛の熟成に適した枝肉を買い戻して使っています」。注文が入ると、レストランのスタイルや料理の内容も考慮して肉を選ぶ山田さん。「料理する方によりおいしく肉のポテンシャルを引き出していきたい。それはありがたい」と言います。注文を受けてから切り出す新鮮な牛肉は、一般の人も少量から購入できます。また「妻が子牛の哺乳を担当するように、目配りがよいので牛の体調がよい」と感謝する山田さん。畜産では肥育にも力を入れています。「脂までおいしくすっきり食べられるような牛を育てたい。その道筋を見出したいと努めています」。

余す所なくおいしく活用!

ゆーとぴあ×6次化

山田さんは熟成させた枝肉を、どの部位も余すことなく活用することを目指しています。その一環で加工品の開発にも取り組んでいて、それぞれの調理法が得意な事業者と協働しています。贈答用のスモークビーフやいたて雪つ娘かぼちゃを組み合わせたキーマカレーなど。商品の一部は飯館村のふるさと納税返礼品にも登録されています。また、あゆみさんが部位に合わせた料理をイベントなどで提供すること



片手で食べられるような工夫も!



ふくしま満天堂グランプリ2025 表彰式

ふくしま満天堂 準グランプリ 肉のゆーとぴあ

『飯館村の牛飼いが煮込んだ牛角煮』旨みたっぷり、ほろほろと柔らかな牛角煮。県産品の6次化商品から特に優れた新商品を表彰する県の事業でプレミアム商品に選出され、さらに消費者投票を経て準グランプリを受賞しました。



完成した「行政区ずかん」を手に。「取材を通して地区による文化の違いを知りました」と副部長の米田拓磨さん(前列左から2人目)。サポートに訪れた「いたて村芸術発表祭」の会場にて。



東大むら塾代表の上野元輝さん。「村の人と密に関わりたい」と足しげく村に通っています。北海道栗山町では菅野牧園を営む菅野義樹さん家族(比曾)とも交流しています。

いたてに吹く新しい風



Shimva(シンバ)さん



郡山市で行われる単独ライブのリハーサルが続いていました。同市のギターデュオ「ジョニダン」さんと。

### 音楽をライフスタイルに 飯館村で歌を紡ぐ

「くまさん」と佐藤祐喜さん(上飯樋)が営む音楽スタジオ兼カフェの地域おこし協力隊に着任したシンバさん(本名・小川奈々恵さん)。タレントのなすびさんやテレビ局に楽曲を提供するなどシンガーソングライターとして活躍してきました。ライフスタイルの変化によるおよそ7年間の休止を経て活動を再開した昨年、くまさんとの出会いを契機に「歌は私の人生そのもの。等身大の生活から生まれてきます。飯館村の皆さんは家族や周りの仲間を大切に助け合って生きていて、それを感じる私の中にもいろいろな感情が生まれてきます。村に来てよかった。聞いてくれる人を勇気づけられるようなシンガーになりたいです」。

協力隊の同僚でピアニストの早野壮さん、くまさんとはハウスバンド「しんこきゆう」を結成。くまさんが「人間交差点」と呼ぶこの場所でも多くの仲間と共に、シンバさんの新たな挑戦が始まっています。

KUMA Sound House/  
つとい茶屋JAZZ喫茶くま

時 午前10時30分～午後5時  
休 無休※臨時休業あり  
飯樋字大火115-3  
☎090-1513-1917

### 村の人の暮らしや文化がもっと知りたい

#### 東大むら塾

「農業×地域おこし」をテーマに飯館村、千葉県富津市、北海道栗山町などで活動している東京大学の学生団体。飯館村では「いたてむらびとずかん」「行政区ずかん」を刊行。また、村内のさまざまなイベントのサポートに入り、村民との交流を深めています。



いたて村文化祭(令和7年10月)



まδειなマルシェ(令和7年9月)

昨秋むら塾の代表に着任した上野さんは現在2年生。去年6月に初めて村を訪れて以来、毎月のように足を運び、体験を通して飯館村を知ろうとしています。「現在村に住む皆さんは、村が好きで大切に思う人ばかりで構成されているのではないかと感じることはありません。そうした『純度が高い』状況は特殊だし、村のために何かをしようというパワーがある」。上野さんはそんな飯館村には大きな魅力があると語ります。「行政区ずかんのインタビューで区長さんが、人とのつながりや助け合いの大切さ、先人

への感謝、それらの文化を次世代につなぎたいという思いを語っていました。東京ではそんな答えは返ってこないでしょう」。上野さんは「村の人の普段の生活や文化をもっと深く知りたい」と考えるようになり、提案を受け入れてくれた村民と1日を共に過ごす密着も試みているそう。「村の皆さんと対等に話ができる、一緒に笑い合えるような関係性をつくりたい」と願っています。溶け込んでも学びたい。

村に通う担い手の1人、上野さんの目に映る飯館村、皆さんにはどう感じられたでしょうか。

#### いたて行政区ずかん

避難指示解除後の地域の様子を記録しようと令和4年にプロジェクトをスタート。令和6年1月に前半10行政区を掲載した1巻目を、令和8年1月に残る10行政区を掲載した2巻目を発行。行政区長へのインタビューを中心に、20行政区の歴史や文化、現在の状況などを取材し記録しました。村内の公共施設の窓口などに置いて配布をしています。



### とにかく飯館村が好きだから

浅原みゆきさんは元環境省の職員。研修で訪れた飯館村の大ファンになり、村に住んで福島地方環境事務所(福島市)に通勤をしていました。結婚を機に退職し地元(東京都)で双子を出産。それでも「村に飲食店を開く」という夢への歩みはよどみなく、昨秋「カレー&カフェAndante」をオープンしました。「ふらりと立ち寄れる交流の場にした。飲み会にも利用していた。ただらうれいす」。



村内のイベントで。



浅原みゆきさん

村産ホーリーバジルを使ったガパオライスや月替わりのカレー、スイーツも美味。



古民家の趣を生かして。大家さんが営む宿泊施設の朝ご飯の注文にも応えます。



#### カレー&カフェAndante

飯樋字原361  
毎月5日間程度の期間限定で営業中。営業日・営業時間はInstagramで確認を。



Instagram

# 「いいたて学」 今年度の学びの発表

「村の魅力を多くの人に知ってほしい」「村のために自分達にできることを考えたい」といった言葉から熱い思いが伝わる、まさしく「村を興さん、村を富まさん」という発表でした。

## 5年生の発表



「飯館村の農業」あぶくまもちを使った甘酒のラベル作りを通して

5年生は、「震災を乗り越えた飯館村の農業」について学びを深め、「あぶくまもち」をテーマに活動しました。活動を展開する中で、いいたて村の道の駅までい館を取材し、駅長へのインタビューをきっかけに「あぶくまもちの甘酒」のラベルづくりに挑戦することになりました。「どうすればいろいろな人が買ってくれるか」「興味をもってくれるか」を話し合い、ラベルのデザインを考えました。ラベルを付けた商品が2月に発売されたことへの達成感や喜びを話し、「私達の行動が社会の役に立つことにわくわくしました」と発表を締めくくりました。

## 6年生の発表



「復興に向けて自分たちにできること」

6年生は、飯館村の震災と復興の歩みを学ぶ中で長泥地区のことを知り、「どんな場所なのか自分達の目で確かめ、向き合いたい」と現地を訪れました。長泥地区では実際に空間線量を測定したり、「ながどろひろば」を訪れ長泥の花でしおりを作ったりもしました。また、地区の方へのインタビューで「長泥をもう一度花の里にしたい」という言葉を聞いたり、長泥に関わる人々のエピソードに触れたりして、「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり一歩ずつ前に進むことが本当の復興」と考えるようになりました。「長泥は”大変な場所”なのではなく、困難に向き合いながら一方で新しい魅力が生まれている”希望の場所”であることを伝えたい」とポスターを制作しました。「いろいろな場所にこのポスターを掲示し、長泥地区、飯館村の魅力を多くの人に伝えたい」と語りました。

# こども議会

## 5・6年生が議会で質問

よく調べ、よく考え、さまざまな角度から質問や提案を行った児童の皆さん、貴重なご意見を、ありがとうございました。



お金は大切に使わないといけないと思います。村のお金を扱うとき、一番大切にしていることは何ですか。

いいたて希望の里学園は、少人数の学校だからこそ、大切にしていることはありますか。



役場では、大切な会議や話し合いが多いと思います。その中で、子どもや若い人の意見はどのように生かされていますか。

子どもと大人と一緒に活動できる、ボランティアチームのような組織を作るのはどうですか。



飯館村の自然や土地は、大きな魅力の一つだと思います。その自然を生かして、アスレチックなど体を動かせる施設をつくるのはどうでしょうか。

災害やいざというときのことを考えて、子どもと大人と一緒に学べる機会や避難訓練などを企画するのはどうですか。



イタネちゃんを広報や配信、イベントなどで、もっと活用していく考えはありますか。



クマやイノシシ、サルなどの野生動物が増えていると聞いています。子どもや村の人が安全に過ごす方法を知ることが大切だと思いますが、役場ではどのような取り組みをしていますか。



これからも飯館村で農業を続けていくために、どのような取り組みをしていますか。

お年寄りや一人で暮らしている人が村には多いと思います。そのような方々をどのように見守り、どのように助けていきますか。



「こども議会」でお伝えした意見は、どのように村に生かされますか。また、子どもの意見をこれからも聞いてもらえる場を設けてほしいです。

美術館や博物館のような場所があれば、いろいろなことを見て学べると思います。また、文化祭の展示のように、作品や大切にしているものを展示し、村の人が活躍できる場をつくるのはどうでしょうか。



いいたて希望の里学園／までのりのこども園  
内堀雅雄福島県知事がこども園と学園を訪問

2月12日、内堀雅雄福島県知事が、までのりのこども園といいたて希望の里学園を訪問しました。

こども園では、園庭で遊んでいた園児が内堀知事を歓迎し、笑顔で交流しました。学園では内堀知事が、高橋教育長の説明を受けながら、外国語指導助手・リアン先生も一緒に進める英語の授業や、電子黒板・デジタル教科書・タブレットなどを活用しながら行う授業を視察しました。

また、学園の「いいたて学」について説明を受けた内堀知事は、「自然環境や歴史、伝統、暮らしについて9年間継続して学ぶことは、ふるさとへの愛情を育む素晴らしい取り組み」と評価し、「飯館村に生まれたことを誇りに思い、その学びを広く発信していくこの取り組みを、県としても応援していきたい」と話していました。



「知事さ〜ん」と声をかけた園児に、内堀知事が駆け寄りハイタッチ。子ども達と交流しました。



授業の見学に教室を訪れた内堀知事に挨拶をする児童。内堀知事は手を振り、笑顔で応えていました。



いいたて希望の里学園  
9年生に感謝を伝える『春雪会』

2月20日、卒業を間近に控えた9年生に感謝を伝える後期課程の『春雪会』が開かれました。会では生徒が先生を交えてレクリエーションを楽しみ、動画で共に過ごした学園生活を振り返り、さらには校内の写真を使ったカレンダーを9年生にプレゼント。7・8年生が心からの感謝を伝えました。



9年生もまた、感謝の言葉と共に後輩へ歌を贈りました。



先生方も一緒に、イラストでお題を伝える「お絵かき伝言ゲーム」。名残は尽きない楽しい時間を過ごしました。



2月の子どもの様子をお知らせします

いいたて希望の里学園  
豆まき集会を開きました

2月3日の節分に合わせて、いいたて希望の里学園で、『豆まき集会』が行われました。集会では、児童生徒が、豆まきをアレンジしたレクリエーションを楽しみました。

鬼の絵を付けた玉入れのカゴに、玉を投げ入れる“豆まき”です。子ども達は、自分の中にある「泣き虫鬼」「面倒くさがり鬼」など追い出したい鬼を退治するイメージで、豆に見立てた玉を、力いっぱい投げました。



鬼の絵を貼り付けた玉入れのカゴに向かって元気に玉を投げ入れる子ども達。楽しそうです。



迫力満点の鬼が登場。子ども達は勇気を振り絞って「鬼は外!」と豆をまき、自分の中の鬼を退治しました。

までのりのこども園  
節分の豆まき会で鬼退治

までのりのこども園でも2月3日に、豆まき会が行われました。3歳未満の園児は「鬼のパンツ」の音楽に合わせて元気にダンスを踊り、新聞紙を丸めて作った豆を投げて鬼を追い払いました。3歳以上の園児は、わんぱくほーるに集まって、先生から節分の話を聞き、自分の中にある「泣き虫鬼」「わがまま鬼」などに向けて、豆まきをしました。豆まきの後は、おやつと一緒に黒豆茶を味わいました。

いいたて希望の里学園  
甘酒のラベルをデザイン

「いいたて学」の授業の一環で児童も栽培に関わった飯館産のもち米「あぶくもち」の甘酒が、2月から、いいたて村の道の駅までい館で販売されています。

「あぶくもち」の甘酒には、うるち米「里山のつぶ」を使ったプレーン味と「いいたて雪っ娘かぼちゃ」を使ったカボチャ味があり、5年生が、3種類の商品ラベルをデザインしました。完成した甘酒は、ふるさと納税返礼品にもエントリーする予定です。

プレーン味は、2種類の米（「あぶくもち」と「里山のつぶ」）が使われていることをイラストで表現。カボチャ味は、色白な「いいたて雪っ娘かぼちゃ」のイラストに元気なイタネちゃんを添えました。



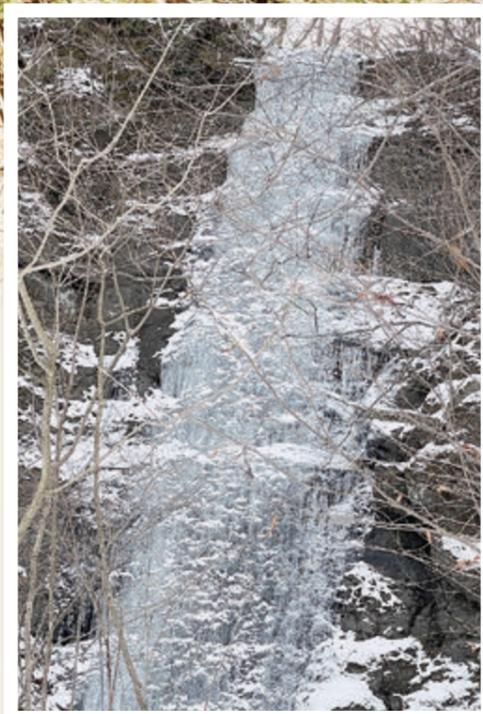
2月3日、道の駅の高橋政彦駅長（後列右端）が持参した完成品を手に喜び合う5年生の皆さん。



カボチャ味 プレーン味

気温の上昇と共に、雪解けが進む2月の真野川。日陰の水面はまだ氷に覆われていて、その下を澄んだ水が滔々(とうとう)と流れていました。佐須行政区の前乗地区から大倉行政区のはやま湖に抜ける村道は、真野川溪谷に並走していて、厳冬期に出現する氷瀑(ひょうばく)や大きな氷柱(つらら)を車内からも望むことができます。ただし厳冬期に通行する際は、荒天を避け、車両も人も装備を怠りなく。

真野川に注ぐ水流の氷結が所々で見られます。10メートル以上の高さになる氷瀑もあり、アイスクライミングに訪れる登山愛好家の間では「真野川アイス」と呼ばれています。





飯館村は、村の子ども達とご家庭に寄り添う事業を幅広く展開しています。そして、小さな困りごとでも相談できる窓口や、豊かな感性を育む遊び場、子育てをバックアップする助成事業などを、さらに充実させようと取り組んでいます。主な事業の最新情報など、飯館村の子育て支援について改めてお知らせします。

安心して子育てができる、やさしい村でありたい

## 子育て全力応援！子どもは村のたからもの

飯館村の子ども・子育て支援事業

数ある事業から  
主なものを  
紹介します。

### 飯館村赤ちゃん誕生及び子育て応援支援金

- 赤ちゃん誕生祝金 20万円  
(出産時に支給する赤ちゃん誕生祝金) 
- 小学校入学時 子育て応援支援金 10万円  
(小学校及び義務教育学校並びに特別支援学校小学部入学時に支給する子育て応援支援金) 
- 中学校入学時 子育て応援支援金 10万円  
(中学校及び義務教育学校並びに特別支援学校中学部入学又は進学時に支給する子育て応援支援金) 
- 高等学校入学時 子育て応援支援金 20万円  
(高等学校及び特別支援学校高等部入学時に支給する子育て応援支援金) 

対象となる方

- 父または母の住所が村にあり、かつ子どもも村に住所がある方。  
村に住所があれば村外の学校に通う場合も対象です。
- いいたて希望の里学園に入学、進級する方。  
希望の里学園の児童生徒は村に住所がない方も対象です。
- 対象となるご家庭に案内や申請書をお送りします。記載の提出期限内に、健康福祉課福祉係まで郵送、または福祉係窓口にて提出してください。

■ 国の「妊婦のための支援給付金」を活用した支援金も支給します。 

- 妊婦支援給付金(1回目) 5万円  
母子健康手帳交付を受けた妊婦の方に、5万円を支給します。母子健康手帳交付の際に申請していただけます。
- 妊婦支援給付金(2回目) 5万円×胎児の人数  
2回目は、妊娠8か月の時に、胎児1人あたり5万円を支給します。※流産・死産等の場合も支給の対象になります。

■ 妊産婦健康診査・新生児聴覚検査の費用を助成しています。母子健康手帳を交付する際、17回分の受診票(「母と子のしおり」)をお渡ししています。受診券は、妊娠確定後の定期的な妊婦健診にご使用ください。

問 健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633 問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

### 出産育児一時金

国から出産に係る費用として原則50万円が支給されます。条件や支給方法については、各加入保険者(国保の方は村住民係)または出産する医療機関にお問い合わせください。

問 住民課住民係 ☎0244-42-1619

### 乳幼児の医療費助成事業

児童が18歳に達する日以降の最初の3月31日まで医療費(個人負担分)を助成します。

問 住民課住民係 ☎0244-42-1619

### ひとり親家庭医療費助成事業

児童が18歳に達する日以降の最初の3月31日まで①配偶者のいない父親または母親②父母のいない児童の医療費(個人負担分)のうち1,000円を超えた分を助成します。事前の登録申請をお願いします。

問 健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633

### 不妊治療費助成事業

不妊治療を受ける夫婦(事実婚も含む)の自己負担分を1年度につき最大50万円、最長3年間助成します。詳細はお問い合わせください。

生殖補助医療交通費支援事業  
生殖補助医療(体外受精・顕微授精)を遠方の医療機関で受けている方の通院にかかる交通費の一部を助成します。1回当たりの金額は、通院先の所在地で異なります。詳細はお問い合わせください。

問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637

妊産婦、子育て世帯、子どもを対象とした総合的な相談窓口です。保健師や子ども家庭支援員等が、いつでも相談を受け付けています。妊娠や出産、子育てのこと、学校でのこと、家庭のことなど、さまざまな困りごとや悩みごとに寄り添い、関係機関につなげたり、細やかな支援を行ったりします。不安や悩みを一人で抱えずに、どんな些細なことでも遠慮なく、気軽にご相談ください。

### こども家庭センターいいたて

地域活性化センター「いちばん館」  
伊丹沢字伊丹沢571番地



問 健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633

### ふかや風の子広場／ひみつ基地どきどき 深谷字深谷前11-1

「いいたて村の道の駅までい館」に隣接。村内外の方にご利用いただいています。



問 ひみつ基地どきどき ☎0244-26-7340

### までのりの里のこども園

伊丹沢字山田380番地

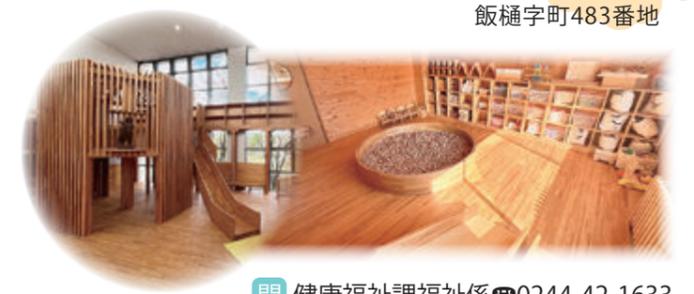


問 飯館村教育委員会 ☎0244-42-1631

村立の認定こども園。家庭的な雰囲気を大切に、充実した保育活動が行われています。

### 飯館村子育て支援センター

飯樋字町483番地



問 健康福祉課福祉係 ☎0244-42-1633

木製の遊具・玩具やたくさんの絵本、パズル、ボードゲームなど、幅広い遊びが用意されています。月に一度の一般開放の他、子育て相談会や親子講座の会場としても活用しています。

## あだたら高原スキー場で開催 スキー・スノーボード交流会



子どもからシニア世代まで24人が参加してスノースポーツを満喫。世代を越えて笑顔の交流が広がりました。

2月11日、あだたら高原スキー場(二本松市)で飯館村公民館・いいたてスポーツクラブ主催の『スキー・スノーボード交流会』(復興庁被災者支援総合交付金事業)が開催されました。

参加者は、レベルに応じたグループに分かれて、インストラクターやいいたてスキークラブの指導を受け、それぞれ技術を向上させながらスキーやスノーボードを楽しみました。また、ゲレンデでもレストハウスでも、参加者同士が世代を越えて言葉を掛け合い、交流を深めていました。

## 企業立地セミナーで 企業と交流、魅力を発信!



多くの来場者でにぎわう会場の様子。参加した各地の自治体と企業が活発に交流しました。

1月20日、東京都千代田区の手町プレイスホールで開催された『福島イノベーション・コースト構想企業立地セミナー』に、杉岡村長が出席しました。

ブース交流会で、杉岡村長が22社と対面し、村の取り組みや立地環境について説明をしながら意見交換を行うなど、今後の企業誘致を進める上で、大変有意義な機会となりました。また、会場で、飯館産の牛肉やエゴマ、いいたて雪っ娘かぼちゃなどを使った食事が提供され、来場した企業の皆さんに、飯館村の魅力を知っていただくきっかけにもなりました。

## 『第4回七ヶ浜の恵みフェア』 N-1グランプリにエントリー!



「やまぶき味噌の会」の皆さんが現地で調理し、つくりにての海苔餅を提供!甘酒やちまきも販売しました。

2月15日、宮城県七ヶ浜町で開催された『第4回七ヶ浜の恵みフェア 海苔だよ!全員集合!!』に出店しました。新海苔の季節に合わせて開催されたこのイベントは、同町特産の“海苔”がテーマ。海苔を使った創作料理を競う「N-1グランプリ」も行われ、村は特産のもち米「あぶくもち」を使った“杵つき海苔餅”でエントリーしました。「やまぶき味噌の会」の“玄米糎味噌”とバターを効かせた絶品の海苔餅です。開場と同時にこの海苔餅を買い求める人の列ができる盛況ぶり、約1時間で完売しました。

## 相双地方の森林組合協議会 行政の協力を要請



杉岡村長に要望書を手渡す松永秀篤会長(右から2人目)。右端は飯館村森林組合の佐藤長平組合長(宮内)。

1月28日、「相双地方の森林林業の再生のための関係森林組合協議会」の代表が来庁しました。同協議会は、飯館村森林組合を含む相双地方の7組合が、マンパワーを補い合い、事業の推進や人材育成で連携することを目的に、令和6年9月に結成しました。来庁した皆さんは、杉岡村長らと懇談し、森林整備にかかる情報を共有。また、令和8年度から5か年の「第3期復興・創生期間」を見据え、関係自治体との連携を図っている旨を伝え、要望書を提出して、村に対しても協力を要請しました。

## ひみつ基地どきどきが バルーンアートイベントを開催



風船がみるみる形を変えていく様子にわくわく。会話や遊びも取り入れたバルーン体験を楽しみました。

2月22日、ふかや風の子広場のひみつ基地どきどきが、利用者への感謝を込めて、風船工房MORITTOによるバルーンアートのイベントを開催しました。

ひみつ基地どきどきのホールに、たくさんの家族連れが集まりました。子ども達は順番に、好きな色やアイテムをリクエスト。自分だけのバルーンアートをつくってもらいました。また、完成したバルーンの花やハート、動物や剣などを使って、楽しく遊ぶ様子も見られました。

ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。これからもたくさん遊びに来てくださいね。

## 浜通り地区環境放射線研修の 報告会が開かれました



村内で行った実地研修の成果についてスライドで報告する水野さん(写真奥中央右)と樋口さん(同左)。

放射線に関する理解を深め、地域や社会の課題を考える「福島県浜通り地区環境放射線研修」の報告会が2月9日に村役場で行われ、杉岡村長以下、村幹部が出席しました。大阪大学を中心にさまざまな大学の学生や大学院生が参加し継続している研修で、大阪大学大学院の水野唯衣さんと東北大学の樋口涼大さんが、場所の特性による空間線量の違いや、水の流れによる土壌内の放射性物質の移動などについて計測データや分析結果を報告。村民との交流で感じた思いや、地域活性化に向けた提案も発表しました。

## 『台湾茶ワークショップ』を開催

2月14日、上飯樋地区のカレー&カフェ Andanteで、NPO法人福島台湾経済文化交流協会主催による『台湾茶ワークショップ』が開催されました。講師は、オンラインで台湾茶を販売する専門店「茶聴(チャテイン)」店主の王孟石さん。台湾から直接輸入した茶葉を使い、台湾茶の特徴や魅力、美味しい淹れ方を紹介しました。参加者は「すっきりした味わい」「優しい甘み」などと香りや味わいの感想を述べ合い、交流も楽しんでいました。



## シルバー人材センター支援を要望

2月12日、福島県シルバー人材センター及びそうま広域シルバー人材センターの皆さんが村を訪れ、そうま広域シルバー人材センターの横山昌義理事長が『地域社会に貢献するシルバー人材センターの新たな決意と支援の要望』と題した要望書を提出しました。高齢者の就業機会の確保など、センターが地域課題に対して果たす役割の重要性を示し、安定的な運営への支援を要望するもので、杉岡村長が「今後の施策の参考にしたい」と述べ受領しました。



## 魅力満載「あぶロマツアー! いいたての冬!」

1月24日・25日、「あぶロマツアー! いいたての冬!」が、農業研修館さりり・宿泊体験館きりもりの駅まごころを会場に1泊2日で開催されました。主催は村も加盟する、あぶくまロマンチック街道構想推進協議会です。ツアーには35人が参加し、草木染めや蕎麦打ちなどを体験。また、天文学者の寺蘭淳也先生による天文講座を楽しみ、冬の飯館の満天の星を観賞しました。「空気が澄んで星空が美しかった」「地元の方と交流もできて体験が楽しかった」と参加者の心に残るツアーとなったようです。



「いいたて愚真会」の指導で蕎麦打ち体験。

郷土料理にも親しみました。写真は凍み餅の調理。



ナツハゼ生産者の菅野クニさん(宮内)を講師に色のバリエーションが美しいナツハゼの草木染めを体験。

## 『蟲となかよしの会』カードゲーム「蟲神器」のイベント村内初開催

2月22日、交流センター「ふれ愛館」で、カードゲーム「蟲神器」のイベント『蟲となかよしの会』が開催されました。「蟲神器」は、100円ショップDAISOのグループ企業・大創出版が制作したトレーディングカードゲーム。虫をモチーフにしたカードで20枚のデッキを組み、2人対戦でゲームを楽しめます。

いいたて希望の里学園で、このゲームをSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)に活用していたことをきっかけに、「楽しんでくれている子ども達のために」と公認サポーター主催のイベントが開催されたものです。大人に混じって村内外の子供も参加し、午前に行われた大会では、大谷実夢さん(いいたて希望の里学園6年)が優勝を飾りました。対戦相手から「自分にはない発想だった」「カードの使い方がうまいね」と称賛され、「考えながら遊ぶのが楽しいです」と喜びを語りました。午後には、ランダムなカードが配られる形式で、参加者が対戦を楽しみました。



競技中は大人も子どもも対等です。決勝戦の対戦を楽しむ大谷さん(手前の対戦の左側)。



今回のイベントを企画・開催した蟲神器公認サポーターの「へーけ」さんこと星嵩広さん(郡山市)。「20枚のデッキが110円で購入できて、年齢に関係なく遊べます。他県には地域おこしに活用している自治体もあります」。

## 花農家が情報を共有する勉強会がスタート

2月13日、「トルコギキョウ研究室」が第1回の勉強会を開催しました。令和2年に移住し就農した花農家の小原健太さん(上飯樋)が、自身のハウスと栽培方法を公開し、生産者同士の情報共有の場にしようと立ち上げたもので、室長は赤石澤忠則さん(上飯樋)が務めます。

初めての勉強会は、JAふくしま未来飯館支店の会議室で開かれ、小原さんが、集まった皆さんに会の趣旨や進め方を説明。「皆さんのおかげで初心者の方も花をつくられたことに感謝をしています。さまざまな生産地を訪れ見聞きした情報などもお伝えしていきたい」と思いを伝えました。ベテランの生産者も経験談や失敗談をフランクに語り合い、よりよい花づくりに向き合う生産者のつながりや意欲が感じられるスタートとなりました。

村内の生産者の他、ゲストとして県の普及員らが出席。栽培時期に合わせてさまざまな方を招く予定で、この日は資材業者が消毒方法のトレンドなどを紹介し参加者の質問にも答えました。



## 第51回衆議院議員総選挙 村内の選挙結果について

2月8日に投開票が行われた第51回衆議院議員総選挙について、村内における選挙結果をお知らせします。今回は、期日前投票と当日投票を合わせた投票率が52.14%で、前回令和6年10月の衆議院議員総選挙の村内投票率を6.02ポイント上回りました。

- 当日有権者数 3,934人(男2,042人・女1,892人)
- 投票者数 2,051人(男1,104人・女947人)
- 投票率 52.14%(男54.06%・女50.05%)



### 小選挙区

福島第4選挙区 ※届出順

山口洋太	192票
斎藤裕喜	632票
熊谷 智	86票
坂本竜太郎	1,103票

※無効票38

### 比例代表 ※届出順

れいわ新選組	53票
中道改革連合	546票
自由民主党	925票
参政党	104票
日本共産党	91票
社会民主党	23票
チームみらい	83票
国民民主党	115票
日本保守党	32票
日本維新の会	41票

※無効票38

## 2月の村の動きと主なできごと

- 25・4日・ゆずカフェ(いちばん館)
- 6日・第4回行政区長・副区長会議(宿泊体験館きこり)
- 7日・第51回衆議院議員総選挙 期日前投票  
(福島市・いいの交流館/南相馬市・サンライフ南相馬)  
※村役場での期日前投票は1月28日〜2月7日
- 8日・第51回衆議院議員総選挙 投開票  
(投票 村役場、福島市・いいの交流館/開票 交流センター「ふれ愛館」)
- 11日・スキー・スノーボード交流会(あだたら高原スキー場)
- 12日・内堀雅雄福島県知事 来村・視察  
(村役場/までの里のこども園/いいたて希望の里学園)
- 13日・株式会社ネクセライズ 防災用品寄贈式(村役場)
- 15日・いいたて村芸能発表祭(交流センター「ふれ愛館」)
- 16日・第4回七ヶ浜の恵みフェア 出店(宮城県七ヶ浜町)
- 16日・3月16日・申告相談(ビレッジハウス) ※土・日曜日、祝日は休み
- 18日・令和7年度子ども議会(議場)
- 19日・読み聞かせ講座(交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・ふかや風の子広場ホールコンサートイベント(ふかや風の子広場)
- 26日・第2回社会教育委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 総合教育会議(村役場)
- 定例教育委員会(村役場)
- 3月議会定例会 開会(議場)
- 農業委員会と農業者との意見交換会(宿泊体験館きこり)

## 住民票・印鑑登録証明書 コンビニ交付サービスについて

問 住民課住民係 ☎0244-42-1618

住民票・印鑑登録の証明書は、全国のコンビニエンスストアなどに設置されているマルチコピー機(キオスク端末)でも取得できます。

- 取得できる証明書 (1) 住民票の写し(全部・一部)  
(2) 印鑑登録証明書
- サービス提供時間 午前6時30分〜午後11時まで(各店舗の営業時間内)  
※システムメンテナンス時は利用できません。
- 利用可能店舗 セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート等、マルチコピー機(キオスク端末)が設置されている全国のコンビニエンスストア等
- 必要なもの 個人番号カード(マイナンバーカード)  
※「利用者証明用電子証明書」を登録している必要があります。  
また、暗証番号(数字4桁)の入力が必要となります。
- 交付手数料 1件につき200円

コンビニ交付  
の利用手順

マイナンバーカード  
と暗証番号を用意!

※マルチコピー機の一例です。写真はセブンイレブン。



「行政サービス」にタッチ。画面に従い進みます。マイナンバーカードをタッチ。暗証番号は画面で入力。1件200円。コインを投入して精算します。プリンターから出力される証明書を受け取り終了。

## 災害対応用品を寄贈いただきました

環境省発注の事業を通して村の環境保全に取り組んでいるマルナカ株式会社と、脱炭素推進や防災意識向上を目的とした連携協定を結んでいる株式会社ネクセライズの2社から、災害対応用品を寄贈いただきました。村は、寄贈式にて感謝状を贈り、両社の支援に心からの感謝を伝えました。



マルナカ株式会社の遊佐憲治取締役副社長(左)が来庁。スポットクーラー2台を寄贈いただきました。



株式会社ネクセライズの中村直代表取締役(左)から、寄贈の防災バッグ7セットを受領しました。

飯館村の食材の魅力が伝わる菓子づくりを  
菓子工房Cocitto



素材にこだわり、フランス菓子の伝統的なレシピを大切にしながら、飯館らしい食材との組み合わせで新しい菓子を創り続けている高橋洋介さん(深谷)。令和7年4月にオープンした菓子工房Cocittoのオーナーパティシエです。

高橋さんは、飯館の食材に可能性を見出し、「美しい村で発見のある菓子をつくりたい」と地域おこし協力隊に志願。令和6年3月に着任し、およそ1年後に店舗をオープンしました。店名の「コチット」は古語の「東風(こち)」と「苞(つと)」を組み合わせた造語です。東風は東から吹く



製造補助のスタッフ雇用も新たな試み。

風、苞は、藁で包んだもの、このことで「土産」の意味があります。「コチット」は、食材の魅力や背景にある物語をぎゅっと詰め込んだ東北・福島発の贈り物です。高橋さんは、協力隊を卒業する令和9年以降を見据えて、製造の体制や販路をよりよい形で確立し、商品のラインアップをさらに充実させようと取り組んでいます。



新商品のキッシュ。パン商品も開発中。

この冬から、うすい百貨店(郡山市)の一角にてコチットの商品が販売されています。また2月には、いわき市の商業施設のイベントに出店し、1日でカヌレ100個を売り上げました。「飯館村の菓子店として、積極的に出店し、さまざまな発信を行っていききたいと思っています」。



菓子工房Cocitto  
時 午前11時～午後6時  
休 日曜日・月曜日  
※出店等による臨時休業あり  
草野字大師堂65  
☎080-5416-3764

季節のフルーツをたっぷり仕込む「ガトー・イイタテ」(上の3点)など上質な焼き菓子の数々。香り大切にしているカヌレ(右下)は毎朝焼き上げるこだわりの逸品。



ECサイト



Instagram

小林金次郎作詞、石河清作曲の「夢大らかに」は、昭和41年に村政施行10周年を記念してつくられた飯館村民歌です。「山美わしく水清らかな その名も飯館 わがふるさとよ」で始まる歌詞と伸びやかなメロディーが、飯館村の情景や村民の心情を豊かに表現しています。

詩人の北原白秋に師事して作詞を学んだ小林さんは教師で、昭和39年から41年まで旧飯館村立白石小学校で校長を務めていました。作曲の石河さんは合唱王国福島の礎を築いた合唱指導者で、合唱曲を中心に作曲でも活躍しました。役場庁舎の前には、御影石の歌碑と、飯館ライオンズクラブが平成20年に寄贈した「心とませ地蔵」がある

ります。地蔵の頭をなでると、当時の子ども達がお母さんコーラスと一緒に歌った村民歌が流れます。原発事故による全村避難に伴い3校あった小学校が1つの仮設校舎で過ごした時期には、それぞれの校歌が歌われた一方、この村民歌が合同の式やイベントなどで頻繁に、また大切に歌われました。

そして、令和8年度から運用が始まる飯館村第7次総合振興計画のキャッチフレーズは「美しく清らかな村 いたて」で、豊かな自然環境、村民性などを次世代へつなぐ希望や決意が込められており、村民に寄り添い「村を興さん」「村を富ます」と力を与えてきた村民歌を想起させます。

「夢大らかに」 心をつなぐ村民歌

歴史の散歩道



役場庁舎前に建つ飯館村民歌の歌碑。手前左が村民歌を聴かせてくれる「心とませ地蔵」。



制定記念につくられたレコードのジャケット。B面には新村民音頭「飯館よいとこ」が収録されています。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介し

「九十歳。何がめでたい」



佐藤愛子 著 / 小学館

映画にもなった佐藤愛子さんのエッセイ。佐藤愛子さんの生き方はとてもパワフル。思わずくすくすと笑ってしまう。読み終えた後は、気持ちすがすがしい!! 元気をもらえる1冊です。

本の貸し出し  
ご利用ください

交流センター「ふれ愛館」では、さまざまなジャンルの書籍・雑誌・絵本の貸し出しを行っています。ぜひご家族でご利用ください。

問 交流センター「ふれ愛館」

☎0244(42)0072

ふるさとに希望をもたらす  
子ども達の深き学び



まさに万感胸に迫る2月となりました。それは、いつも鋭い視点と新鮮な驚きを与えてくれるいいたて希望の里学園生による「こども議会」のことです。現在、5年生がラベル製作を手がけた「あぶくまもち」の甘酒が道の駅で販売されています。ぜひお手にとり取って味わっていただきたいですが、そのラベル製作の過程を通じて「私達の行動が社会の役に立つこと」にわくわくしました」と発表してくれました。「わくわく」は自らの喜びや期待感を表現するために使われることが一般的ですが、学園の児童は「社会の役に立つ」という、自らの外側に「わくわく」を感じることができたということ。つまり、手に取ってくださるお客様や村を訪れる方々の笑顔や喜びを自分のものとして思い浮かべ、楽しめたということなのだと思われました。

そして6年生は「復興に向けて自分たちにできること」をテーマに発表してくれました。長泥地区を見学し、住民の方にもお話を聞きながら感じたことをレポートしてくれましたが、中でも特段胸に響いた表現がありました。それは「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり、歩みを進むことが本当の復興と考えるようになりました」「長泥は、大変な場所なのではなく、困難に向き合いながら、一方で新しい魅力が生まれている。希望の場所であることを伝えたい」という発表です。

この言葉に触れ、震災以降の村民の皆様の不安や葛藤、それらを乗り越えてきた15年に思いを致し、涙が溢れ出てしまいました。

私自身、職員時代から現在に至るまで、魂を込めて取り組んできた「生きがい」となりわいにフォーカスした取り組みの数々、例えば避難先での営農継続と再開、除染後の地方回復、村内での営農再開、農業組織の設立誘導、全国に先駆けての大規模農地集積、公社農業部門の立ち上げ、帰還困難区域の避難指示解除、村産品の発掘と魅力発信、企業誘致等々、全てがここに繋がっていたんだ、と感じました。

5年生、6年生は震災時にはまだ誕生していません。その子ども達が「いいたて学」を通じて、これまで深い洞察を表現してくれたことに、私は「希望」を感じることができました。ぜひ長泥の皆様は勿論のこと、村民の皆様にも、この発表を聞かせていただきたいとお願ひ申し上げます。

未来を担う子ども達がこの村で暮らしたい、この村で働きたいと思えるような、そして全世代が笑顔になれるような、希望に満ちたふるさとに向けて全力を捧げてまいります。

まさに万感胸に迫る2月となりました。それは、いつも鋭い視点と新鮮な驚きを与えてくれるいいたて希望の里学園生による「こども議会」のことです。現在、5年生がラベル製作を手がけた「あぶくまもち」の甘酒が道の駅で販売されています。ぜひお手にとり取って味わっていただきたいですが、そのラベル製作の過程を通じて「私達の行動が社会の役に立つこと」にわくわくしました」と発表してくれました。「わくわく」は自らの喜びや期待感を表現するために使われることが一般的ですが、学園の児童は「社会の役に立つ」という、自らの外側に「わくわく」を感じることができたということ。つまり、手に取ってくださるお客様や村を訪れる方々の笑顔や喜びを自分のものとして思い浮かべ、楽しめたということなのだと思われました。

そして6年生は「復興に向けて自分たちにできること」をテーマに発表してくれました。長泥地区を見学し、住民の方にもお話を聞きながら感じたことをレポートしてくれましたが、中でも特段胸に響いた表現がありました。それは「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり、歩みを進むことが本当の復興と考えるようになりました」「長泥は、大変な場所なのではなく、困難に向き合いながら、一方で新しい魅力が生まれている。希望の場所であることを伝えたい」という発表です。

この言葉に触れ、震災以降の村民の皆様の不安や葛藤、それらを乗り越えてきた15年に思いを致し、涙が溢れ出てしまいました。

私自身、職員時代から現在に至るまで、魂を込めて取り組んできた「生きがい」となりわいにフォーカスした取り組みの数々、例えば避難先での営農継続と再開、除染後の地方回復、村内での営農再開、農業組織の設立誘導、全国に先駆けての大規模農地集積、公社農業部門の立ち上げ、帰還困難区域の避難指示解除、村産品の発掘と魅力発信、企業誘致等々、全てがここに繋がっていたんだ、と感じました。

5年生、6年生は震災時にはまだ誕生していません。その子ども達が「いいたて学」を通じて、これまで深い洞察を表現してくれたことに、私は「希望」を感じることができました。ぜひ長泥の皆様は勿論のこと、村民の皆様にも、この発表を聞かせていただきたいとお願ひ申し上げます。

未来を担う子ども達がこの村で暮らしたい、この村で働きたいと思えるような、そして全世代が笑顔になれるような、希望に満ちたふるさとに向けて全力を捧げてまいります。

■ひとのうき

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
中井 奏来 くん	竜太さん 麻衣さん	小宮

HAPPY BIRTHDAY! 🍀

ひとのうき 令和8年2月1日現在

人口	今月 (前月比)	1月1日~31日までの人口動態
●男	2,210人(-4)	転入 6人
●女	2,126人(-4)	転出 6人
計	4,336人(-8)	出生 0人
世帯数	1,787戸(-3)	死亡 8人
(住民基本台帳人口)		

(1月21日から2月15日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
原田 マリー さん	55	飯樋町
青山 宏 さん	90	草野
渡邊 茂 さん	87	飯樋町
大谷 孝 さん	84	大久保・外内
中野 スイ子 さん	91	蕨平
圓谷 儀一 さん	93	蕨平
菅野 益彦 さん	67	関沢
高橋 義治 さん	79	飯樋町

ご冥福をお祈り申し上げます 🌸

住まいのこれからについて一緒に考えましょう!

空き家サポーターMessage 🏠 住み継ぐ村の宝

住まいについてのお話、聞いてみませんか?

空き家サポーター



渡邊富士男さん (飯樋町)

空き家空き地バンク・住まいの利活用に関するご相談は  
いいたての暮らしをつなぐステーション3<sup>o</sup>  
(いいたて移住サポートセンター)  
伊丹沢字伊丹沢578番地1  
☎0244-68-2850



宅建士の資格を持つ相談員が、ご相談にのります。

空き家サポーターの渡邊富士男です。私達、空き家サポーターは、村の大切な住まいについて学び合うため、年に数回、不動産に関わるゲスト講師をお招きして、意見交換会を行っています。専門家のお話が聞ける、学びの多い場です。来年度はこの会を広く開き、ぜひ皆さんにも気軽に参加していただけたらと思っています。

お問い合わせは空き家サポーターまたは3<sup>o</sup>まで。意見交換会についても、お気軽にお問い合わせください。

📷 皆さんが広報委員! 📷  
いいたて PHOTO リレー  
月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。



撮影 鈴木美智子さん (上飯樋)

テーマは「節分の思い出」  
〜たくましく育てほしい〜



「震災前の飯樋幼稚園で、節分の豆まきをした時の集合写真です。この子たちは、当時のひよこ組ですね」。写真を提供いただいたのは、長年、飯館村の幼稚園で教諭を務めていた鈴木美智子さんです。「豆まきをして、自分の中の悪い心を追い出そうって、そもそもみんないい子なのにね。大人になるにつれていろいろな経験をしていくのだろうけど、この頃の純粋ないい心は、ずっと持ち続けてほしいですね」と当時を振り返りながら語りました。子ども達へのメッセージをうかがうと、「私は『たくましく』という言葉が大好きなんです。大変なことがあっても、その時々を充実した時間にしていくのは、自分自身だと思うから。この写真の子ども達にも、今の子ども達にも、『たくましく』生きてほしいです」と、心温まる言葉を聞かせてくれました。

4月号 3/16締切  
例えば…「ひな祭り」「卒業式」「桜」「チューリップ」をテーマに。

5月号 4/17締切  
例えば…「お花見」「入学式」「ツツジ」「花粉症」をテーマに。

- 写真様式 データ、現物を問いません。
- 写真枚数 1掲載につき1~2枚程度。
- 提出方法 電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。
- 選考 応募多数の場合は選考します。
- 報償 1掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定住係 (広報担当: 巻野) ☎0244-42-1613

心華やぐ「つるし雛」 高木ミヨ子さんの手仕事にうっとり

冬の手仕事として 手芸を楽しんでいる 高木ミヨ子さん（大倉）。長男の妻・久子さんの発案で昨年からつるし雛を自宅の一室に飾っています。つるし雛との出会いは震災による避難がきっかけでした。当時、久子さんは飯館村社会福祉協議会のスタッフで、事務

所が避難していた福島市飯野町で盛んなつるし雛づくりの講座を仮設住宅などで開いていて、相馬大野台仮設住宅に入居していたミヨ子さんも、そうした講座を通してつるし雛をつくり始めました。もともとデザインや手芸が好きだったミヨ子さんは、仮設住宅

の仲間と、手づくりのつるし雛を支援のお礼に贈ることもありました。帰村後も畑仕事に休みに入る冬季に、つるし雛の制作を続けてきました。今年は2月中旬から10数点を部屋に飾り、知人や友人にお披露目をして、交流を楽しんでいます。



ミヨ子さん(右)は端切れや古い着物を材料にさまざまなデザインのつるし雛を制作しています。「しまっておくのは勿体ないから飾りましょう」と提案した久子さん(左)が桃の節句に合わせたディスプレイを担当しています。



つるし雛と一緒にミヨ子さんの作品が飾られています。右は糸の装飾が美しい手鞠（てまり）。左は木目込み人形。

ありがとう、じゃがいも



2月20日、村出身の災害救助犬じゃがいもが天に旅立ちました。

震災直後に村で生まれ、飼い主の避難に伴いNPO法人日本動物介護センター（岐阜市）に預けられた雑種犬のじゃがいも。約5年間の訓練と11回の挑戦で災害救助犬の試験に合格し、そのエピソードは小学生の道徳の教科書にも取り上げられました。また、飯館村の「わんだフルまでい大使」を務め、センターの皆さんの尽力でたびたび村に帰り村民との交流を続けました。じゃがいも、今まで本当にありがとう。

2025年飯館村10大NEWS

YouTube 飯館村公式チャンネルで公開します。飯館村の1年間を一緒に振り返りましょう！

公開日は村HPでお知らせします。

脚本もMCも撮影も編集も職員が担当した手づくりの動画です。どうぞお楽しみください！

問 村づくり推進課 ☎0244-42-1613

〈編集後記〉

芸能発表祭や子ども議会、節分の催しなどに取材で伺う中で、村民の皆様や子ども達のたくさん「笑顔」を見ることができました。人が笑っている様子を見ると、なんだかこっちまでうれしくなってきました。「きっとこの世界の共通言語は、英語じゃなくて笑顔だと思え」私が好きな歌の中にこんな歌詞が出てきます。

笑顔が笑顔を呼んで、皆様にたくさんの福が訪れますように。(巻野)

今号もさまざまな場所でたくさんの方にお話になりました。お話から学ぶことが多くて、見えていることはほんの一面なのだと思いましたが、皆さんの深い思いややさしさに触れ、どの場面も本当に温かく飯館村がますます輝いて見えました。(星)